

第7回新市将来構想策定小委員会

議 事 録

第7回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年7月15日(火) 午後6時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	外山 康男
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

事務局（北谷）

ただいまより長岡地域任意合併協議会第7回の新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。なお、本日の小委員会は、委員全員の出席をいただいておりますので、小委員会規程により会議が成立していることをご報告申し上げます。

次に、本日の資料のご確認をお願いいたします。会議資料として、会議次第、資料1、資料2及び資料3をお配りしてあります。なお、本来であればあらかじめ資料をお届けし、ごらんいただきたかったのですが、本日ごらんいただくことになりまして、申しわけございませんでした。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきたいと思っております。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願いいたします。

議題に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

それでは、考えてみますともう今日で7回になりまして、いろいろ多角的なご意見をいただいております。いよいよこれから胸突き八丁へだんだん入っていくんじゃないかという気がしますけども、よろしくお願ひしたいと思っております。

今日は、次第にございますように、三つの項目についてご審議、ご意見をいただきたいと思いますと思っておりますけれども、最初にこの前提案をしていただきました新市将来構想の根幹となります新市地域らしさ価値といいますが、そういったものについてご意見いただきました。その内容を事務局等で検討をさせていただきますして、今日修正をした案が提示されております。その修正した内容と、これから展開されます重点項目といいますが、そういうことについて事務局からご説明をいただいております。事務局よろしくお願ひいたします。

事務局（竹見）

協議会事務局の竹見と申します。よろしくお願ひいたします。まず、議事の（1）、新市地域らしさ価値及び統合ビジョンについてご説明をいたします。座って説明させていただきます。

資料ナンバー1、新市地域らしさ価値（修正案）及び統合ビジョン（案）という検討資料をごらんください。前回の小委員会の意見を今回反映しながら、このように提出させていただきました。

それでは、1ページ目をごらんください。地域らしさ価値の具体化方針ということで書いてございますけれども、前回の小委員会で四つの地域らしさ価値を一つの冠という形でできないかという意見もございました。これは後でご説明させていただきますけれども、右上のところに書いてございますように、統合ビジョンという一つ貫いた形で後でご説明をさせていただきます。

2ページ以降、皆様方からいろんなご意見を委員会で出していただいたわけなんですけども、修正す

る部分とか、それからまたそのままにしておいた部分がございますので、順次説明をさせていただきます。

まず、新市地域らしさ価値その1です。独創企業生育都市ということで、こちらの生育というところがなかなかわかりにくいんじゃないかなというご意見をいただきました。こちらの地域らしさ価値の意味ですけれども、独創企業生育都市というのは、いわゆる育成という、誰かに何かをしてもらうということではなくて、独創的な企業が生まれ育っていくと。いわゆる自立できるそういった価値は、新市に大きな価値として生まれてくるということで、育成ではなくて生育という形でこのままの形にしました。

それから、「技」立国ということも少しわかりにくいんじゃないかというご意見をいただきましたけれども、よく技術立国とか、そういう言葉も聞きますし、それから立国ということで自立という意味もあらわしまして、「技」立国という形でそのままの形で載せていただいております。

それから、意味につきましては、文章の中につけ加えております。例えば生育ということですが、独創企業生育都市の下側の文章ですが、上から3行目です。3行目の右側の方から、市民自ら主体的な取り組みで更に発展・推進という後に（生育）という形で、どういうものかというものをこの文章の中でおわかりいただけるようにつけ加えておきました。

それから、こちらの新市地域らしさ価値なんですけども、ベースが上の今まで調査した結果、有識者ヒアリングとか、それから地域アンケート等、そういった部分が材料になってくるということで、そこから新市地域らしさ価値の意味が生まれて、その文章を、一つのキャッチフレーズ的な形で作ったということです。それから、下の赤くくった部分で、これからそういった地域らしさ価値ということを行っていくための、価値を高めていくための姿勢や行動というものもここにあらわしております。

この四角で囲った部分すべてが一つのセットで新市地域らしさ価値をあらわしているということで考えていただきたいと考えております。

それでは、3ページ目をご覧ください。新市地域らしさ価値その2です。元気に満ちた米産地ですけれども、前回の小委員会ではひたむき米の生まれる里ということで、ひたむき米というのがなかなかわかりづらいんじゃないかなということでした。意味は誠実な営みの産物という意味でして、この「ひたむき米」を「まごころ米」に変えさせていただきました。文章の中にも、1行目、誠実な営みの産物（まごころのこもった米など）という形で表現をさせていただいております。

それから、一番下の文章なんですけど、可能性を志向するという形に変えさせていただきました。

続いて、4ページ目をご覧ください。それから、新市地域らしさ価値その3です。こちらは、世代がつながる安住都市です。それで、今回は未来人を育むフィールドミュージアムという形で表現させていただいたんですけども、なかなか横文字というのが市民の方々に理解を得づらいんじゃないかなということで、こちらのフィールドミュージアムを、資源博物館という形に変えさせていただいております。

それから、未来人というフレーズがなかなかわかりづらいんじゃないかなということでした。それにつきましては、未来人というのは、実はこの意味は子供たちという部分に特化しているわけなんです

が、今の生きる子供たちだけではなくて、未来を生きる子供、いわゆる10年後、20年後もそういった子供たちのことも考えていくという意味で未来人という言葉を使わせていただきました。文章の中でも、上から4行目です。高齢者や子供（未来人＝未来の人、未来をつくる人）という形で文章の中にわかりやすく説明しております。それで、こちらの新市地域らしさ価値3につきましては、世代がつながる安住都市、未来人を育む資源博物館・新ながおかという形で表現させていただいております。

それから、赤くくった部分でも一番下に、ちょっとごらんになっていただきたいんですけど、子供を育むための、様々な経験を生み出す地域資源の多様さ（資源博物館）を活用した、「自分が育つ」地域づくりを志向するという形で表現させていただいております。

続いて、5ページ目をごらんください。こちらは、新市地域らしさ価値その4です。世界をつなげる和らぎ交流都市、人「ものがたり」競和国・新ながおかですけれども、前回の小委員会ではものがたりという部分と競和国という部分がなかなかわかりづらいんじゃないかなということでご意見をいただいております。

まず、ものがたりでございますけれども、こちらのブランディング価値の意味の文章に書いてございますように、上から4行目です。長岡は戦火に遭いながらも、人の営みによって、その人の営みというのが物語であるということで、そういった物語によって長岡というまちができてきたという意味で、ものがたりというのをそのまま載せておきます。

それから、競和国ということですが、こちらにつきましては赤くくった部分の下の部分に意味をつけ加えておきました。競和国という意味は、新市各地が、持ち味の競演を行ないながら、より高水準の交流と融和の地域、ここで（競和国）を目指す姿勢を明らかにする。これは、合併して8市町村が切磋琢磨をしながら一つの高水準の交流と融和の地域を目指していこうと、そういう意味が込められておまして、こちらはキャッチフレーズとしてこのまま載せておきました。

それから、世界をつなげるという部分で結ぶという表現の方がよろしいんじゃないかなというご意見をいただきました。こちらは、まず新市地域らしさ価値3の世代がつながるといのは、これは時間的なつながりを考えておまして、次の新市地域らしさ価値4は、世界をつなげるといのは空間をつなげるという意味です。空間とか、それから人の気持ちをつなぐという意味で、結ぶという表現よりもつなげるという表現の方がよろしいんじゃないかなということでこのままの表現にさせていただきました。

続いて、6ページ目をごらんください。こちらは、今までの修正させていただいたブランディング価値を修正しながら、展開イメージを変えさせていただきました。

それから、次の7ページ目をごらんください。前回の小委員会ではいろんなご意見をいただいたわけなんですけど、ブランディング価値の意味の中で教育という部分、人材教育とか、そういった部分を一つ抜き出してもう一本柱をつくれないうご意見をいただいております。4本を5本にできないかというご意見もいただきました。こちらの7ページに、左から新市地域らしさ価値、それから共有要素、統合要素と書いてございますけれども、こちらをごらんになっていただくとおわかりになるかと思っております。

けども、いわゆる4本の柱の価値を高めていくものにつきましては人材が不可欠であるということなんです。共有要素というところにつきましては、これらの四つの柱の地域らしさ価値を高めていくための一つの要素が、この部分で必要であると。それは、人間性とか教育という部分がすべての地域らしさ価値に該当するということなんです。こちらを抜きますと、並列で持っていくと、この中の地域らしさ価値そのものが骨抜きになってくるといいますか、なかなか地域らしさ価値そのものが成立してこないということですので、人材というものがすべてにかかってくると、長岡地域の地域らしさにすべてかかってくるということで、5本の柱にするよりも、委員さんから何か一つの冠になるものがないのかというご意見もいただいた経緯もありまして、一つ統合要素という形で考えております。統合要素というのが一番右に書いてございますけれども、すべてのものを生み出す誠実な人間パワー、それから人材育成の精神、それから歴史と実績があるということで、統合的な一つのビジョンのキーワードとしては、「人・ヒト」は「財・タカラ」であるという一つのキーワードが出てまいりました。それを一つの統合ビジョンにまとめたのが下に書いてあります。

まず、意味を先にご説明をさせていただきます。下に文章が書いてございます。長岡地域の全ての価値形成は、誠実な人間性と人材育成精神の歴史に裏づけられる。長岡地域にとって、「人・ヒト」こそ「財・タカラ」(=人財)であり、地域の人々の可能性や才能を尊重し、人々の活動によって長久の繁栄(=万歳)、これバンゼイと言います。万歳を獲得する都市・新ながおかを標榜する。

では、統合ビジョンを読み上げたいと思います。人財万歳都市・新ながおか、こちらの統合ビジョンですけれども、上の新市地域らしさ価値のように副題等々は設けません。これは一つの統合的なスローガンの意味もございまして、地域の人たちはもちろんのこと、いわゆる対外的なところについてもアピールしていくものだと。いわゆる長岡というのはこういう一つの価値があるということアピールしていくという部分で非常に重要な部分になるかと思えます。

以上、前回の小委員会ではいろんなご意見をいただいたものをいろいろ整理させていただいて、前回ご提示させていただいた資料を再度修正、それから一つの統合ビジョンというものをつけ加えさせていただきます。ご説明させていただきます。

以上です。

委員長(豊口 協)

はい、どうもありがとうございました。ということで、この前の第6回にかなりいろいろご意見をいただきました。その内容を再度検討をしていただきまして、修正できるものは修正する、それから提案をされた内容で非常にある意味を持っているというふうなものは再度その形でもってここにまとめてもらっております。

これからちょっと今までの修正案を含めてご意見をいただいてもいいと思いますが、まず新市地域らしさの価値についてということで、3ページから4、5、6とページにそれぞれまとめてあります。この辺からご意見をいただきたいんですが、最初に元気に満ちた米産地というのがあります。まごころ

米というふうにはこれは変わりました、「ひたむき米」が「まごころ」に変わりましたが、こういった修正箇所を含めてご意見をいただきたいと思いますが、最初に元気に満ちた米産地を中心とした……その前の2ページがあります。ごめんなさい。失礼しました。独創企業生育都市、この生育という言葉がわかりにくいんじゃないかというふうなことがこの間俎上に上がっておりまして、それは意味がこういうものであるということを再度今事務局から報告を受けております。どうぞこの辺でご意見いただきたいと思います。

はい、お願いいたします。

委員（山本俊一）

済みません。1枚1枚のことではないんですけども、全体を通してですけども、先回るときには横文字はできるだけ避けてみんなわかりやすくというふうなのが、それは確かに横文字の関係はなくなっています。ただ、私全般的に見させていただいて、これを市民に説明するときにはやはり何か言葉をちょっと、悪い言葉で言えば遊んでいるんじゃないかというふうに私は思うんです。皆さん一つの言葉を聞けばその言葉で理解しなきゃならんことを、一々下の方のとことかよそから引っ張ってきて、これはこういう意味なんですというふうな形のものやはり余り好ましくないんじゃないかと。この中でその意味が市民にわかるというふうなことを極力すべきではないかというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。というご意見ですが、これはどういたしましょうか。

事務局（高橋）

私ども事務局としましては、これは修正案で出しました、これで固めたというつもりはございませんので、意見をいただいて、修正できる部分はさらに修正をしていくつもりでございます。ただ、具体的にどの部分がそうなのかということをおっしゃっていただければ、そこについて再度案を練って出すということはしたいと思っております。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。何か具体的にご指摘は。

委員（山本俊一）

具体的にいいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（山本俊一）

先回るとき出た案のが、これはこういう意味だからこのまんまにしておくとか、それから万歳という言葉がそのまま使っている。それは、何で「バンザイ」なのが「バンゼイ」になるのかと。昔バンゼイと言われていたというのはそれはわかりますけれども、それをわざわざバンゼイというふうな話にしな

きゃならんとか、それ以外の競和国と、競い合う和の国、それを下の方からとっていかなきゃわからんみたいな話のものは好ましくないんじゃないかというふうなことです。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。ということで、説明をしなければわからないような言葉は少し問題ではないかというご指摘だと思いますが。

事務局（北谷）

この前からちょっと私感じているんですが、事務局、我々が皆さんのご意見に対して答えているという何かちょっと不思議な委員会だなという気もしているんですけども、今の委員さんの質問、ご指摘の趣旨は十分わかっておりますが、そうであれば、じゃかわりにこういう言葉がいいんじゃないのか等、自分はこう思うとか、そういったご意見があると非常に今後我々もさらに検討をしやすいんですけども、今我々の考えではこの生育、例えば一番最初の独創企業生育というのは、生育というのは育成ではなくて、生育というふうにしたいと、そういう思いなんだということで、確かにこの下の説明を読まないといけない方もいらっしゃるかもしれませんが、ここは将来30年後、50年後を見据えたある種ローガンのなところなものですから、どうしてもこういう形になってしまうのではないかなという気はしております。

それで、万歳都市もありますけれども、これも決して私もこれがいいと今の時点では思っておりません。私、事務局長個人の意見として大変申しわけないんですが、この人財万歳都市・新ながおかについても、私はここで統合ビジョンとしては、この言葉は別にしまして書きたいことは、人は財（たから）だと、だから人材を育てる。育てることによってこの新ながおか地域が未来永劫栄えて発展していき続ける都市であるというような意味の言葉を書きたいなと思っております。例えば万歳じゃなくて人財永続都市とか、何かそういったことにすれば、より市民の方がわかりやすいのであればそういったことは今後も検討していきます。ですから、わかりにくいということはわかりますが、何か代替意見などを言っていたらと大変助かるんですけども。

委員長（豊口 協）

はい、わかりました。ということで、この修正をしていただいた、ないしはそのまま残っているような言葉につきまして、この委員会のメンバーとしてご意見がありましたらお願いしたいと思っております。こういう言葉に置きかえた方がいいんじゃないだろうかとか、このままでいいよと。

はい、お願いします。

委員（米持昭次）

どうしてもということじゃないんですけども、ちょっと私気がついたところで申し上げたいと思うんですが、独創企業の生育都市ということで、これはこの前と同じ字で出ているわけですけども、これ四つの柱を見た場合に、やはり一つ平仮名が入って言葉がまとまっているんです。ここだけ漢字が並べられているという感じがございまして、その生育がちょっとわかりづらいというお話もあったわけ

ですが、例えば独創企業の育つ都市というようなことで平仮名を入れたらどうかと、一つの案でございますが。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常にわかりやすくなると思います。ほかにご意見ございませんか。これは、2ページ、3ページ、4ページ、5ページ、全部トータルでひとつご意見いただければと思いますが。そうしますと、一つの言葉の使い方として、独創企業の育つ都市というふうな使い方はどうだろうか、こういうご意見ですが、よろしいですか。ほかにご意見ございませんか。

はい。

委員（二澤和夫）

4ページでございますでしょうか、黒い字のところですが、未来人という言葉ですが、この説明が未来の人、未来の人は何かわかるような気がするんですけど、未来をつくる人ということになると、現在の我々も未来をつくる人の中に入るのか、あるいはさっきの話ですと未来に生きる子孫というふうな意味に限るとすれば、未来をつくる人というふうな説明よりも未来に生きる人というふうなことの方がはっきりするんじゃないかなという気がするんですけども、そんな気がいたします。

それから、5ページ目のところ、これ対案を出せということですが、なかなかいいというのは、非常に言いたいことがいっぱい入っているもんですから、難しいんですけども、人「ものがたり」競和国と単語が三つぽんぽんぽんとここだけ並んでいるんで、ほかのところでは何か育むだとか、あるいは生まれるだとか、あるいは生み出すだとかというふうな表現になっていて、ここだけ単語が三つに並んでいるんで、今ちょっと対案がないんですけども、もう少し表現の工夫をできないかなというふうな気がいたします。

それから、一番最後のところの総合ビジョンでございますけれども、今理事が言われたような意味を全部この漢字の中に込めるとなるとこれ大変な話だなという気がするんですけども、私は例えば人はぐくみ、人が育てるというふうな意味が入るのかなという気がするんですけども、人中心都市といえますでしょうか、そういうふうな意味合いなのかなという気がしますが、確かに万歳というのはちょっとなじみづらい言葉だなという感じがいたします。

とりあえずそんなところでございますが。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。いろいろご指摘いただきましたけれども、これ読んだときに、先ほども山本委員の方からお話ありましたように、ふっと読んだときに、ずっと素直に、スムーズに理解が生まれてくるような形が一番いいんだろうと思うんですけども、そういう意味からいきますと少し全体に硬いかなという感じ、私はしているんです。ですから、今の最後の7ページのところですが、まとめの柱、これを人財万歳というふうなことが書いてありますけども、これは非常に難しい。人財なんていいですよとやっぱりこれ何か難しいんです。何かあのまち、このまち、人のまちなんて言ってくれた方がわかり

やすいような気もするんですけども、ちょっと何か全体に硬いかなという感じがまだ私はしているんですけども。

事務局（北谷）

委員長、ちょっとよろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

事務局（北谷）

それで、今日別にこれで固めたいというふうに我々事務局は全く思っていないので、また後日でもご意見いただきたいと思いますし、今後また直す可能性はあるんですが、その概念として、私先ほど7ページの統合ビジョンのところなんですけど、今日ぜひともご了解というか、合意できればありがたいなと思っています。先ほど申し上げましたとおり、この新長岡エリアでは人づくりが大事で、人、いい人材を育てることによってこの新地域、8市町村が一つになった地域が未来永劫育っていくんだという、そういう概念をあらわす言葉を載せていいかどうかということぐらいは今日ご意見いただければなというふうに思いますが。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。一つの軸になると思うんです、新しい地域をつくっていくための。

文化財にしても、歴史にしてもすべてこれ人がつくってきたもんですから、またそういう柱が一番重要なんだろうという気がします。そういうことで今事務局提案になっておりますけども、この上に全体がかぶさるといいますか、軸として人という柱をこの四つの項目に対して中心にこれを置くというふうなことで進んでいいかどうか、この辺のご意見もいただきたいと思います。

はい。

委員（山本俊一）

私も、先回のときに、ブランディング価値のところに1本柱を入れたらどうかというふうな提案もしたわけですけども、やはり新市の一番のものは、ここに住んでいる人たちが生き生きできるというふうなことのわけですので、これは1本の中でこれをまとめてやられるということについては賛成でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにご意見ございませんか。この柱が決まると、ほかの四つの項目もそれに準じてだんだん整理されて、全体のつながりがはっきり見えてくるだろうと思いますけども、よろしいですか。第6回でいただいたご意見、この案につきまして、これはまたやっぱり内容としてはこの委員会の意見がここに集約されているというふうにご理解いただきたいんです。それを事務局の方で整理していただいたわけですけども、そのいただいた内容について今ご意見をいただいております、この間のご意見の中で軸は一

体何なのかというふうなご質問、それを議論していただきました。今日は人材といえますか、人というものが中心に出てまいりました。この人を中心に将来この四つの柱をさらに内容豊かなものにしていくということになりますが、この点についてご意見ございましたら。よろしいですか。反対とか何かありませんか。

はい。

委員（村上雅紀）

この万歳というのはちょっと私もよくはないなと思うんですけど、じゃ何があるかと言われるとちょっとそれもないんですけど、そのものの多分字体のロゴが硬くしているような気がするんですけど、自然にそういう雰囲気と思うんですけど。

委員長（豊口 協）

人というのは非常にこれ貴重なものですし、人をどういうふうに表示するかというのはこれは非常に難しいんだと思うんです。ですから、またそういう意味でいろいろな言葉を俎上に上げて議論をしていくということが必要になるかもしれませんけども、一番重要なことは、この新しいまちができて、そのまちづくりの軸になるのは何かということ、一般の市民が小さい子供からみんなわかるような言葉にしなければいけないだろうという気がします。言葉を違った意味で解釈するというのは一番危険ですから、そういう間違った解釈ができないような言葉でまとめていくというのが必要だろうと思います。この辺ももう少し、もしこういう形でまとめるということにご異議がなければさらに事務局等でまた整理をしていただきますし、また委員の方々からのご意見をこれからいただいていって、整理をしてまとめていきたいと考えますけども、今ロゴがよくないということをおっしゃっていただきました。これよろしいですか。6回、7回議論していただきまして、大体の全体のアーキテクトといえますか、構造がわかってきましたけども、じゃこの議題につきましてはこの四つの柱を1本の人でもってまとめていくと、それから使う言葉についてはよりわかりやすくしたいということ、そしてだれがいつ見ても必ず我々が提案をしようとしていた意図が伝わるような言葉でまとめていくというふうなことで次へ進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

それでは、次の項目に移りたいと思いますけども、資料2が次でございます。この資料2に基づきまして重点実現項目等を中心に議論をしていただきたいと思いますと思いますが、事務局お願いいたします。

事務局（北見）

それでは、続けてご説明をさせていただきます。議事の（2）、新市地域らしさ価値の構築に向けた重点実現項目について、座って説明させていただきます。

それでは、資料ナンバーの2、新市地域らしさ価値（ブランディング）価値の構築に向けた重点実現

項目（重点課題）検討資料をごらんください。

まず、1ページ目をごらんください。1ページ目は、新市地域らしさ価値構築に向けた考え方を提示しております。左の方は、まず重点実現項目を出すに当たって一番もととなるものは何かというので、今まで調査を行ってまいりましたいわゆる新市の地域らしさ価値を構成する地域の方々の思い、こちらが実現すべき事柄、いわゆる現状の強みを再確認しているということで、こちらがすべてベースになっております。それから、今まで小委員会の方でいろんなご意見が出されたわけなんですけど、そういった小委員会での意見、今もお話ありましたように、人材というのを今後地域外の人にも訴求できることを考えていこうとか、それから国に先んじて行えるような施策とか、それから産学協働ということもご意見を伺っております。

それから、下の部分なんですけど、いわゆるブランディングを既にもう行っている都市があります。

そういったブランディングを行っている先進事例からの地域ブランドのケーススタディとか、それからブランドそのものの視点からどういった視点でもって考えていったらいいかということを整理する必要があります。それが次の四角で囲った部分で、小委員会の意見、それから先行事例からの整理、地域らしさ価値を高める共通の視点、キーワードの抽出が必要だろうということです。これまた後でご説明をさせていただきますけども、共通の視点が三つございます。

それから、今日お話というか、皆様方からいろんなご意見をいただいたり、ご議論をいただきたいのは、今日の各地域らしさ価値を高めるための重点課題、地域ブランド構築の重点実現項目であるということです。本日またいろいろご議論いただいたり、また今後も取りまとめていくこととなりますけども、そういったもの、重点実現項目が出た場合に今後は、今次の四角にございますように自治体ワークショップを行っております。その中で、実現に向けての戦略分野とか、行政分野に展開する活動項目につながっていくということで、重点実現項目を達成していくための具体的な施策につながっていくものです。

いずれは建設計画の方にも影響していくというような部分で、非常に今回の将来構想を構築していく上でブランディング価値と同じぐらいのコアな部分であると、核となる部分であるということで今日ご説明をさせていただきます。

次のページ、2ページをごらんください。こちらは都市ブランド構築のケーススタディということで、全国でもブランド構築が進んでいる自治体の事例です。一つは湯布院町です。こちら温泉のまちということなんですけど、別府温泉と一線を画して、もっと生活者の視点に重点を置きながらまちづくりを行ってきたところです。全国的に認知が高く、人気のある観光地で、住民が誇りを持てるまちづくりを推進しております。

それから札幌市です。こちらは、さっぽろ＝IT都市という形で、IT都市の新しいブランドに確立しようということで、IT化による大幅な行政改革を推進しております。

それから神戸市です。こちら、神戸＝ファッション都市というイメージがあったんですけど、ファッションだけではなくて、医療福祉都市のブランドイメージの確立を今推進中であるということです。

それから岩手県です。こちらは、物産ブランド構築=いわてブランド、いわゆる銀河系いわてというのをキーワードとして、県のイメージアップ戦略を推進中です。それから、物産ブランドの構築を推進しているということです。

それで、3ページをごらんください。こういった先行事例とか、今までの小委員会のご意見とか、それからブランドの視点から、キーワードを整理しております。左側が、まず一貫したアイデンティティの発信があると。アイデンティティの確立。それから、多様な分野を束ねる統一コンセプト、いわゆる一貫性があるということです。それから、多様なアイデンティティ発信の機会、いわゆる情報発信機会の多様性があるということです。それから、ブランドを育てる機能、いわゆる育成というキーワード。

それから、継続的な事業・活動があると。事業活動の継続性がキーワードとして挙げられるということです。

こういったキーワードを三つの形でまとめております。それが右の三つの丸です。上からまず見極めるです。アイデンティティの確立、それから都市（地域）価値の見極めと確立。それから、二つ目の視点ですけれども、発信する。いわゆるイメージアップ、それから情報発信力の強化、情報機会の多様性です。それから、三つ目の視点です。育てる。ブランド育成、それから人材の育成と継続的な事業・活動、これらの三つの視点でブランディング価値を高めるための重点実現項目を整理しております。

4ページをごらんください。「新市地域らしさ価値」重点実現項目と活動展開例です。こちらの重点実現項目は、行政がやってあげるとかそういうことではなくて、新市になったら市民と行政が実現していく課題であるということでお考えいただきたいと思います。

まず、独創企業生育都市です。左側がwillとcanということで、今までの調査したものをまたまとめております。先ほどの三つの視点でwillという実現すべき事項は、見極める、アイデンティティの確立、一貫性、それから発信する、情報発信力強化、機会の多様化、それから育てる、人材育成、ブランド育成です。それから、canということで、地域の資源とかできることから、それを足して重点実現項目という形で、見極める、発信する、育てるという形で整理しております。

まず、独創企業生育都市のブランディング価値を今後高めていくために、見極めるという視点での重点実現項目です。緑でくくった部分をごらんください。こちらが新長岡が誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる、そういうことを行っていくと。それはどういうことかという、四角で囲った部分の太字の部分です。これは、地域が誇る産業と技を核として地域と人とを連携する、こういうことに取り組んでいくということです。下の二つのぼちは、一例として挙げております。例えば流通革命、交通拠点創造、ネットワーク強化等のインフラ整備などです。これはあくまでも一例でございます。

それから、発信するという視点です。これは新しいビジネスモデルでmade in nagaokaの魅力の世界に発信する。それは、社会を常にリードする価値創造型製造業の育成と振興です。一つ目のぼちですけども、国境のない社会に対応した製品価値を伝えるストーリーづくりとプロモーション活動の推進とか、それから情報・交流拠点の整備や海外からの技術者も快適に過ごせる開発整備、こう

いったものが一例として考えられます。

それから、育てるという観点です。これは、市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす。それは、起業やベンチャー企業育成を支援するシステムの整備・充実です。これは、地域アンケートにもございますように、働きやすいまちというものが非常に関心が高かったということで、そういったものを含めまして雇用を支えるという部分をつけ加えておきました。

それから、次の育てるという観点なんですけど、未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進、産業革新に貢献する人材育成を目指した教育と社会支援の実施。一例といたしまして、世界に通用する技術革新を起こす人材育成を目指した教育環境と社会支援制度、あるいは産業界が求める人材像、創造力、異文化理解、それから語学力に即した高度教育の推進などが考えられます。

続いて、5ページをごらんください。こちらが元気に満ちた米産地、まごころ米の生まれる里・新ながおかです。こちらの重点実現項目を読み上げたいと思います。前ページと同じく、左の方が今までのwillとcanです。それをベースにまとめ上げたものです。

それでは、見極めるという視点です。「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立。それは、地域農産物や酒、農産加工品、郷土料理を組み合わせた新長岡メニューの開発。例えばブランドの裏づけとなる安全、安心、おいしさを揃えた品種や栽培手法の確立、あるいは「人を健康で元気にする」長岡ブランドの価値を明確にするなどです。

それから、発信するという視点です。こちらは、おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信。おいしさに加え、健康増進、安全・安心等の生活価値観に即したブランドを開発し全国に向けて強く発信することによって日本の食卓を変える。これは、例えば生産者の「心と顔」が見える販売手法の確立、あるいは特産日本酒のPRとそれに合うセオリーを組合わせた提案をすると、そういったものです。

それから、育てるという視点です。これは、虫が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す。これは、信濃川をはじめとする豊かな水や土壌を守り、その恵みによる米作りや新しい“食”のあり方を提案する「スローフード」の振興。一例でございますけれども、例えば農産加工業の育成支援、大学と連携したバイオテクノロジーの研究・活用です。あるいは、地域外に長岡フードファンクラブを展開する。これ地産地商、商業、普通は地産地消ということでも、消の部分商業の方に置きかえております。それから、次の世代につなげる魅力ある農業を担う後継者の育成と支援等が考えられます。

続いて、6ページをごらんください。こちらは、世代がつながる安住都市、未来人を育む資源博物館・新ながおかです。こちらのブランディング価値を高めるための重点実現項目です。

まず、見極めるという視点ですけれども、「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出。こちら生活環境に特化されます。子供から老人までの全ての世代が住みたくなる住環境の実現です。

例えば防犯体制というのが地域アンケートでも高い関心がありましたけれども、安心して家を留守に

できる防災・防犯体制の一層の充実、あるいは多様なスタイルを可能にし、人生を豊かにする暮らしづくりなどです。

それから、発信するという視点です。こちらは、「寝たきり老人ゼロ」・老人力を活かしたまちづくりを推進。身体的なケアだけでなく、精神的な活力を活かす場を創り、高齢者を含めた、すべての世代が元気なまち。例えば地域におけるオープン型高齢者福祉施設やサービスの開発と実施、あるいは高齢者の方々の持っている「経験豊かな知恵」を活かせる場の創出等が考えられます。

それから、育てるという視点です。こちらは、新長岡発！「豊かな才能」を発見し、育てるまちづくりを進める。それは、「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」を開発し推進する。こちらの委員会の方で、日本一子育て環境のよいまちというご意見もありましたように、出産育児に最適な環境をつくる、0歳児保育の充実、待機児童ゼロ、それから新教育システム開発などが考えられます。それから、日本一の通学環境の整備等が考えられます。

それから、7ページ目です。こちらは、世界をつなげる和らぎ交流都市、人「ものがたり」競和国・新ながおかです。こちらのブランディング価値を高めるための重点実現項目です。

まず、見極めるという視点です。地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設、それは地域資源・特性を活用した地域内外の交流機会の創設をいたします。例えば地域内外の交流拡大を促進する体験型観光メニューの開発、あるいは新ながおか交流革命（30万人の先進的な都市機能エリアの創出）の推進等が考えられます。

それから、発信するという視点です。こちらは、すべての市民が「新ながおか親善大使」、地域の伝統文化、魅力をテーマとしたイベントの開発と実施。例えば「酒」「花火」「食」「雪」サミットなどで「新ながおか」の魅力を発信、それから利雪・親雪で豪雪地帯を観光資源として発信、あるいは伝統の舞や神楽等の集中公演と伝統工芸展示を合わせたイベント等の実施が考えられます。

続きまして、育てるという視点です。こちらは、「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」、点々とありますけども、こちらにもいろんな言葉が入ると思いますが、魅力あるまちを目指す。全ての市民が「新ながおか」に誇りを持てる都市の実現。例えば農業体験、棚田保全ボランティア、自然学習観光等の市民力による体験メニューの開発、それから訪れたい地域としての魅力向上のための地域をあげたサービス品質の向上などが考えられます。

以上、四つのブランディング価値の重点実現項目を説明させていただきました。

委員長（豊口 協）

はい、どうもありがとうございました。

それでは、これからいろいろとご意見をいただいてまいりますし、また具体的なご提案等もいただきたいと思いますが、このキーワードの整理なんですか、見極める、発信する、育てるというこの三つのキーワードで全体の構成をこれから進めていきたいというふうに整理をしていただきました。そういう点で、このことについてご意見がありましたらいただきたいと思いますが。

委員（長谷川孝）

ちょっと用語の定義について伺います。

6ページでございます。まず、見極める、子供から老人、その次発信する、寝たきり老人ゼロ・老人力を、その文面の中で高齢者と高齢者施設。老人と高齢者の定義の違いはどのようなのでしょうか。どのようにとらえておるのですか。老人とは何歳から、高齢者は何歳からですか。先日発表されました日本人の平均余命、男子が78歳何ぼ、女子が85歳何ぼです。そうしますと、いわゆるここでとらえる高齢者というのは何歳以上、老人というのは何歳と、この違いをちょっと教えていただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

この問題は非常に難しい問題だと思います。新聞なんかでもしょっちゅう老人と高齢者というのはどうとらえるか、特に老人という言葉に非常に問題がたくさん含まれているんじゃないかというふうなことも議論されていますが、この辺の整理はどういうふうな形でお考えになりましたでしょうか。

事務局（竹見）

まず、高齢者ですけれども、通常人口統計なんかで用いる場合65歳以上ということで考えておりますけれども、ただこちらの老人という部分と高齢者という部分、例えば発信するという部分で力というものを、ここに例えば高齢力みたいなちょっとフレーズはなかなかおさまりがたいんです。それでフレーズの関係で老人力という形で使い分けをさせていただいているんです。下の部分では、どちらかというところからの活動方針ということの中で、高齢者という部分で今後いろんな施策とか出てまいりますんで、そのような言葉の形、漢字で使い分けはしております。特に何歳以上とかいうことはここでは明確に分けてはおりません。

委員（長谷川孝）

よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（長谷川孝）

今ほど委員長申し上げたように、なかなかこの区別というのはできないんです。いわゆるそのほかに年寄りという表現もあります、日本語の中には。そうしますと、この見極めるの子供から老人までです。ここは力がついておらんのです。じゃ、ここは子供から高齢者まででよろしいのではないかと思いますけど。

それから、寝たきり老人、これも何か差別用語の一つになるんじゃないかと思います。委員長も指摘にありますように、おまえは老人だ、おまえは年寄りだというのと、あなたは高齢者になりましたねと、なかなかこの線引き今難しいと思うんです。いわゆる社会通念、行政上で使われているのは、今ほどお話のありました65歳以上です。これはまだ平均余命が70歳代のころを言っているんです、男女ともに。もうそろそろこれも日本、これは国の問題になるかもしれませんけど、その辺のいわゆる認識も変

えていかなければならないような時代に来ているんじゃないでしょうか。なかなか理屈申し上げて恐縮ですが、その辺はご一考なりますか。じゃ、老人力じゃなくて、高齢者の力でもいいわけでしょう。

事務局（北谷）

ちょっと説明が足りなく申しわけありません。ここで言う高齢者というのは、いわゆる行政用語というふうに私は理解しております。それ以外の老人ですけれども、私の理解は若者でない方イコールここで言う老人力というのは、人生を経験されてきて、若者には持っていない豊かな経験、豊かな知識を持っている方を指している言葉で、私は老人力というのは差別用語だとは思って使ってはおりません。老人が持つ若者にはないパワーという意味で老人力とあえて書かせていただいたもので、ここは私が書いたところではございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

委員（長谷川孝）

それでは、その老人とは若者でない。じゃ、若者とどこで差別するんですか。その若者と老人という境はどこにあるの。

事務局（北谷）

ここであれですけども、私が言うのは先ほど申し上げたとおりですが。

委員（長谷川孝）

いや、その若者というのは何歳なんだ。

事務局（北谷）

何歳と決めないといけないですか。

委員（長谷川孝）

いやいや、そうでなければ、いわゆる差別しているということですよ、若者と老人と。じゃ、私は老人だと思っている人が老人なんですか。私は幾つになっても、65になっても、70になっても老人じゃないと思うし、あなたから見れば老人かもしれんけど、私自身は老人じゃないと思って意識持っていますから。

事務局（北谷）

私は差別をしているつもりはありません。区別をしているつもりで書かせていただいたものです。

委員（長谷川孝）

区別しているでしょう。区別ということは差別です。

事務局（北谷）

いや、そうは思いません。差別と区別の意味は明確に違います。

委員（長谷川孝）

いや、老人と若者ときちんと分けたらこれ差別です。

委員長（豊口 協）

はい、ご意見ありがとうございます。今社会的通念では高齢社会と、こう言っているんです。老人大国という言葉も昔はありましたけども、今は使わなくなってきたということで、全体を通じて、ここには世代がつながる安住都市と書いてありますけど、世代がつなぐ安住都市の方がわかりやすいと思いますが、世代がとにかくつながっていったら、そのジェネレーションごとにそれぞれの違いだとか、差別だとか、機能だとかいうものがいろいろ議論されるんじゃなくて、全体を通して一つの間関係がうまく成り立っていて、そこでこのすばらしいまちが生まれるんだということをここでは言いたいんだろうと思うんです、我々としては。委員会としてもそれは言いたいし、事務局もそういうイメージがまとまればいいということで今まとめていただいたわけですけども、確かにおっしゃるように、老人という言葉と高齢者という言葉はどう使い分けをするのか、社会通念として老人という言葉は使っているのかどうかということも実はあると思うんですが、この辺もう少し時間かけてご検討をいただきたいと思います。私ももうこの年ですから、老人と言われるのはすごく嫌なんですけども、しかし言われてもしようがないかなと、こう思ったりするんですが、特に外国の方は年を言わないです。高齢者なんか老人なのかというのは年齢では関係ないと、精神構造によってそれははっきり判断されるんだと、だから私はまだ青春だし、若者だということをおっしゃる、大学のリタイアした外国の先生なんかもおっしゃっていますけども、そういう何か非常に人生に明るさを持ったような言葉がもし使えればいいなというふうな気がします。これは一つの検討事項として残していきたいと思いますが、ほかにどうぞご意見をいただきたいと思います。

委員（佐々木保男）

今四つの柱について具体的に説明いただいたんですけど、これそれぞれ実現すればすばらしい都市になることは間違いのないと思います。ただ、あくまでもこれビジョンで、目標だと思うんですけど、これから肉づけをしていくと思うんですけど、一方我々の立場からしますと、やはり新市の将来ビジョンのある程度具体性が、いわゆる地域住民に対する説明もあるわけですけど、世間ではマニフェストといわれていますけど、これがいわゆる地域住民に対する公約だと思うんです。その辺の具体性、例えば非常にすばらしいものが出ているんです。私ども一番関心のある5ページでも、次の世代につなげる魅力ある農業を担う後継者の育成と支援、これは当然私どものまちでもこういう柱を掲げているんですけど、これの具体的なものを明記しないと思うんですけど、その辺はどうでしょう。

委員長（豊口 協）

これは、今日はこういう状態で、キーワードと、それから方向づけを今確認しているわけです。この委員会としては、こういう方向を確認して、こういうキーワードでさらに次へ進んでいこうと。この次の段階で、それぞれ地域の方たちのご意見も踏まえて具体的な提案を整理をしていくというプロセスに入ります。まだ今日は7回目でございます、これかなり先までずっとスケジュール、後でスケジュールの説明あると思いますけども、ご案内にも書いてありましたけども、8月いっぱいスケジュールが

入っています。この委員会も何回かこれから開かれるわけですけども、その中でより具体的な整理をしていって、最終的には今佐々木委員がおっしゃったような形になるだろうというふうに思っております。

ですから、今日はその途中の段階で、字句と言葉とかを整理して確認をしていくと、それを中心にして今度さらに具体的な提案に入っていくと、こういうことになりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

はい。

事務局（北谷）

済みません。ちょっと補足を。

今佐々木委員のご質問ありましたけど、この冊子の1ページで青の網かけをかけているところが今日皆様方にお願ひしたいところでありまして。それで、その横の下に小さい字でワークショップ作業と書いてありますが、ここで今委員長がおっしゃったように、もう少し具体的なものが出てきます。それで、また資料3を後で説明いたしますけど、この資料3の冊子で目次的なものを載せてありますので、ここでも今後の作業がご理解いただけるのかなと思ひます。それはまた後で説明しますが、今日はこの四つのブランディング価値のそれぞれの三つの見極める、発信する、育てるの視点で、この緑のところを書いてある基本方針、その下に太字で書いてある言葉、この辺の考え方を今日はご議論いただきたいということで、この人の赤ぼっちのところは、これはまだ今日の段階では一例でございます。そういったご理解でお願ひしたいと思ひます。今日は緑のところと太文字のところをお願ひしたいという、そういうことです。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

小池委員何か。

委員（小池 進）

今お話しになりましたことと関連すると思うんですが、見極める、発信する、育てるというこの共通の視点といいましょうか、この見極める、発信する、育てるの関連性というのはどうなのかなというふうに思っているわけですが、みんな非常に深いかわりがあるんでないだろうかと思うんです。見極めたことも発信しなきゃならないし、そして育てること、これから新しい施策ということになるんでしょうか、あるいは現在やっている施策を継続するということもあり得るわけですが、それもやはり発信していかなければ全体像というものが理解されてこないんじゃないかというふうに思うわけです。その辺どういうふうにお考えなのかお聞かせいただければいいかと、こう思っているんですが、いかがでしょうか。

事務局（竹見）

今委員のおっしゃるように、それぞれがすべて独立しているとか、そういうことではないんです。視点というのは左に、今までの調査結果をベースにまとめたのが左のwillとcanなんです。これを

より見極めるという性質が強いものを集めたんです。それから、発信するということも、よりまたそういった部分の性質が強い部分を集めたり、それから育てるというところもいわゆる性質がここに近い部分を集めています。それをベースに今後じゃどういう重点的な課題が共通の課題としてあるかということをお考えまして右の方に来ているんですんで、ベースはあくまでも今までの有識者ヒアリングとか、それから地域アンケート、あるいはワークショップの結果がベースになっているということで、おっしゃりますようにすべてが独立しているわけじゃなくて、関連性というのがあります。ですので、例えば見極めるという部分で何か具体的な方針を出したといたしましても、それを例えば発信するということも今後考えていくとか、そういった意味で、ただ何か性質的に強い部分を挙げていっているということでご理解いただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

委員（小池 進）

はい、大体わかりましたけれども、ただ例えば4ページの独創企業生育都市のところ、左側の見極めるというところで、それこそ伝統的な産業というものはそれぞれの市町村にあるわけございまして、それが右側の方の見極めるとかそういうところには出ていような気もするんで、そういうものもあるわけですから、これは特徴的なものだけを挙げてこられたのかなというふうに思うわけです。四角に囲んである展開例のところ、左側の、例えばw i l lというところにも出ていますし、c a nのところどうか。伝統産業みだな、例えば醸造関係なんかはそれぞれ8市町村にみんな立派なものがあるわけで、みんな競い合っているような工夫をしているわけございしますが、そういうものが見極めるところへ出ていないということはちょっとおかしいなと思うわけです。

委員長（豊口 協）

これさっきも事務局からお話ありましたように、この赤丸はほんの一例が入っております、今日はこの赤丸は視野に入れなくていただいてもいいと思うんです。ですから、見極めるという言葉とその下のグリーンベルトに書いてありますゴシックの文字と、その下の枠に入っている一番上の言葉、この三つの言葉を中心にご検討いただきたいと。これをベースにして、下にあります赤丸についてはさらにこれから具体的に我々が前からやってまいりましたw i l lとかc a nとかいう言葉にフィードバックしながら次の段階より具体的な案につながっていくんだらうと思うんです。ですから、これは余り気にされなくていいと思います。

委員（村上雅紀）

ちょっと私の認識が間違っていたらもう一度ちょっと説明お願いしたいんですけど、7ページの発信するところで、すべての市民が「新ながおか親善大使」と書いてあるんですけど、すべての市民というのは長岡地域の市民ということでよろしいんですね。それが親善大使なんですか。何かちょっと相手に対して親善大使みたいなとらえ方が私はするんですけども、自分たちが自分たちでPRを発信して

いくに、何か私の説明の認識がちょっと間違っていたら聞かせていただきたいのですが。

委員長（豊口 協）

これは私の理解では、今度新しい新市が誕生した場合に、その市民の一人一人がこの新長岡市の責任者としてすべての情報を外に対して発信していくと。広報活動というか、PRといいますか、イメージづくりといいますか、そういう一人一人の市民に責任があるよと。長岡というもの、新市を、イメージを外に出していく、そういう意味でこれを私はとらえているんですけど。

委員（村上雅紀）

それが親善大使ということなんですか。

委員長（豊口 協）

そうですね。

委員（村上雅紀）

それで、私は合点がいかないみたいな部分がちょっとあったもので。

委員長（豊口 協）

もし何か補足説明していただければ。よろしいですか。例えば日本のアイデンティティを高めるためにどうしたらいいかと。それ日本の国民一人一人が日本の親善大使として外国へ行くと。例えば海外旅行へ行く日本人も親善大使として海外に行き、日本とはこういうすばらしいもんだよと、我々もこういう旅行でこっちへ来てるけども、マナーもちゃんと守って、日本人というのはすばらしいなという印象を相手に与えることが一つの大使としての役目だろうというふうに理解しているんです。

委員（村上雅紀）

親善大使か大使じゃないかというのは何か相手が決めるような気がしてしょうがないんですけど。

委員長（豊口 協）

いや、そういう意識で我々は行動しようということです。と思います。

委員（村上雅紀）

じゃ、まずそれだったら。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（米持昭次）

6ページをちょっとお願いしたいと思いますが、先ほどから老人という言葉に対するいろいろご意見があるわけですが、私も長谷川小国助役さんが言われたように、寝たきり老人という表現はちょっといかげなと思いますので、もう少し元気老人というような逆の発想から何かできないかなという感じがするところです。

それともう一つは、発信すると育てるというところの関連性が少ないというか、発信するの方では老人主体に考えているという向きがございますし、育てる方では子育てということが主体になっている

んですけれども、もう少し発信する面におきましても、もっと若い人からも応援に来てもらいたいとか、そういう発信がちょっと必要じゃないかなというような感じがするんですけど。

委員長（豊口 協）

これは、先ほども重ねて申しわけないんですけども、今日議論していただくこの見極める、発信する、育てるとというのは、今まで6回にわたって議論していただいた内容を整理すると、こういう一つの市民の行動軸というものが出てくるんじゃないかなという気がするんです。我々は市民として安住都市ということを考えたときには何ををはっきりと意識しなきゃいけないかということ、それは見極めることですけど、市民として何を安住都市としての新長岡市の内容を発信するか、外部に対して伝えていくかということ、それから我々は責任として、ここで育っていく子供たちを、またまち全体の人々をどう育てるかという責任があると思うんです、教育に対する責任。そういう三つの軸で、これベクトルが違うんですけども、そういう形でこれからのまち、安住都市を計画していこうと、こういうことにまとめたんだと思います。ですから、今ご指摘ありました寝たきり老人という、これはちょっと問題がある言葉だと私も思いますし、これは先ほども申し上げましたように、これからもう少し議論をしていただいて、事務局の方でも適当な言葉を整理していただくというふうな方向でまとめていきたいなと思っておりますけど。

基本的にいろいろご意見いただきましたが、どうでしょう。7ページのところ、交流都市というのがありますけれども。

はい。

委員（野田幹男）

今委員長7ページと言われたんですが、私もう一回6ページでちょっとお願いしたいんですけども、私は老人という言葉にそう抵抗はないんですけども、人によってはやはりこれをなかなか気にする方も多いんです。それで、この青い部分を重点的にということでもありますので、6ページの真ん中の発信するという欄で、寝たきり老人ゼロ、寝たきり老人の場合は、これは老人と言わんとつながっていかないのかなと思うんですが、老人力を活かしたということなんですが、ここを、高齢者の活力を活かすというのは、この違う活かすにしたら品位があってつながっていくのかなという気がするんですが、検討していただきたいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。どうも老人という言葉と高齢者、これいつまでもいろいろ問題になりますけれども、これは非常に今回の第7回の重点課題といえますか、そういうことになっているんじゃないかと思います。

はい。

委員（北村 公）

7ページなんですけれども、発信するのところですが、7ページだけじゃなくて、ほかに通じると思

うんですけども、やはりこの辺の地域の水というのをもう少し、もうちょっとPRしていてもいいんじゃないかなというふうに思うんです。自然の中に入るんでしょうけれども、長岡市はどうかかわらないですけども、栃尾も山古志も水量は、山古志さんはどうかかわらないですけど、自然水はかなりありますので、水というのはかなりPRする価値があるのではないかなというふうに思うんですけども、どっかに入れた方がいいのではないかなと、水資源について。

委員長（豊口 協）

それは次の課題として、共通の項目になるだろうと思います。ありがとうございました。

そうしますと、今までいろいろご意見いただきましたが、今まで出していたいただいたwillとかcanの細かいご意見を整理させていただいて、ここで見極めて、そして発信をして、もう一度まちを振り返って育てていこうと、こういう三つの軸ができております。その真ん中には新長岡市があって、ベクトルが三つの方向づけになっているわけですけども、X軸とY軸とZ軸のような形になっているわけですが、そういうことで次の段階に進んでいこうと、こういうことでよろしいですか。

はい。

委員（外山康男）

今いろいろ意見がありましたが、新ながおかという、これも平仮名で入れていただいたのは非常に気に入ったところですが、4ページの見極めるの一番上、新長岡、ここは漢字で長岡というふうにされるのか、あえて意味があってされるのかどうかということ。

それから、わかりやすいというのが、先ほどの見附の助役さんが言われたように、私もこの中で一番わかりやすいのが7ページの育てる、これはだれ見ても、暮らしたい、働きたい、遊びたい、魅力あるまちを目指すというような、非常にわかりやすいと思うんです。じゃ、ちょっと疑問に感じるかなというのは、未来のエジソンを育むというのは、これはやっぱり技術者という意味だと思うんですが、そういうところからこれはいいと思うんですが、5ページの見極める、新ながおか元気印というような、これは説明の中でいいと思うんですが、やっぱり元気印って何だやということになるので新ながおかブランドでもいいんじゃないかなと私は思います。

それから、発信するの中の新ながおか料理、これ料理だけでいいのかなと。素材とかというもの、先ほどありました水なんかも含めて資源と言った方がいいのかなという感じがいたしました。

それから、これは緑のところでなくていいんですが、やはりただ単に長岡と言われると地域性が新長岡と違うと。やっぱり説明の中でもそういうものが出るんじゃないかなと懸念します。この育てるもやはり新長岡発になっておりますが、6ページの育てるですね。この辺あえてこうされたのかどうか、ちょっとお聞きしたいと、その点です。

委員長（豊口 協）

これは、第6回のときも確認されていたと思いますけど、新ながおかということだろうと思います。皆さんその言葉が非常にいいというふうにおっしゃっていましたから、委員会として。

ほかに。

はい、どうぞ。

委員（朝日由香）

見極める、発信する、育てるという切り口でやっていくというところについては私はそれでよろしいと思うんですが、本来だともうちょっと前段でお話しするべきだったのかなと思うんですが、ページでいうと6ページで、先ほどからすごく話題になっていることなんですが、willのところ、育てる人材育成・ブランド育成 ということに、老若が協働するまちづくりというふうになっていて、具体的に出ている言葉で発信するというのが寝たきり老人ゼロみたいなこととか、それから子育て教育みたいな形になっていて、私のもう少し具体的なイメージとしては、老若男女の世代とか性別を超えたそういうかわりであったり、協働という、そういうイメージが非常に強いんです。やっぱりそういった地域とか、世代とか、そういった性別とかの枠をもっと乗り越えた新しい関係性とか、新しいかわりとか、人の育つ育成みたいな、そういったイメージのものを、ちょっと今言葉が出てこないんですが、そういったものをこういったところに織り込んだり、それがもしかするとこの6ページだけではなくて、もうちょっと全体を通してそういったものが出てくるのかもしれませんが、ここの中で、記載されているところであえて言うならば、そういったところをもうちょっと柱として出していただけるとありがたいです。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。私も先ほど申し上げましたように、そういう意味でこの安住都市というのはとらえられているんだろうと思うんです。ただ、今日いろいろと誤解を生んでおりますので、できるだけ整理をしてわかりやすいようにしていきたいと思います。特に寝たきり老人という言葉が気になるんですけども、ゼロにしたいということですから実は言葉としてはいいんですけど、このゼロというのは目に入らないで、最初の寝たきり老人だけ見ちゃうとまずいなと、こういうことになるもんですから、この辺も言い回しをちょっと考えなくちゃいけないだろうと思いますけども、問題提起としては非常に明快でありまして、みんなが和気あいあいとして道の中歩いているなんていうのはすばらしいだろうと思うんですけども、そういう言葉にした方がいいかもしれません。

ほかにご意見。

はい。

委員（高野徳義）

全体に観光に対することがちょっと少ないような気がするんですが、その辺もう少し入れていただく気はないんでしょうか。

委員長（豊口 協）

これは、観光としては特に入っていません。例えば発信するところには花火とか、雪とかいろいろありますし、恐らく今出していただいた闘牛なんかも全部入ってくると思うんです。この次の段階で具体

的な今度資料をつくっていくことになりますので、そこでは必ずそういうものが具体的に入ると思いますが、今日は、方向づけというふうにひとつお考えいただければと思うんですけど。

ほかにご意見。

委員（二澤和夫）

6ページのところの育てるといふところのフレーズですが、新長岡発！、これ平仮名、漢字別として、むしろその四角の中に入っているゴシック体を使った方がわかりやすいんじゃないかという気がするんですが、例えば新長岡発！「子育て・教育」の分野で日本のモデルとなるまちづくりを進めるみたいの方がわかりやすいのかなと。それで、「豊かな才能」を発見し、というのはいいんですが、子育ての部分がこれだとちょっとカバーしていないのかなという気がします。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

どうぞ。

委員（石黒貞夫）

前回公用のために欠席しまして、大変失礼いたしました。今日ずっとこの資料を見ますと、非常に何でもいいことがすべて書いてあるんです。これに財政がくっついて回ると、もう極楽みたいなものでしょうね。本当にこれ以上何も言うことはないというようなことが、もうべたべたと出ているわけです。

また、willの中にもcanの中にも、もっともと言おうと思えば、書こうと思えば何でも増えるようなそういうことですが、これはお聞きしなけりゃならないんですが、この部分を私どもは認識しながら地域の人たちにどのようにご説明をすればいいんだろうと思うんですが、全部これ膨大な資料です。今までの資料を全部網羅して地域の人に説明しても、これはとても時間がありません。

従いまして、最終的には恐らくは詰めて、そしてもっとわかりやすく住民に伝えられるような、それこそ発信できるような、そういう内容のものでないと、これはもう私どもとても頭の中へ入り切れません。いいことだらけ。本当にふるしきにもう結わい切れないうらいいいことが全部書いてある。そういうようないいことづくめではいけないと私は思いますけれども、しかし新しく統合して新長岡市を構築するには、やはりこれぐらいのことは知っておかなきゃならんのかなと思いますけども、一方繰り返すようですけども、余りにも膨大なよいことづくめだけが、理想みたいなものがたくさん載っているわけで、これが合併した暁にこの膨大な広い隅々まで、市町村の隅々まで果たしてこれが発信できるのかなと、実行できるのかなというような非常に心配も実はしているわけですが、これらをやはり隅々まで発信できるというか、行き届くような、そういうものをやはり構築して、私どもが自信を持って説明できるような、そういうものにしていきたいと、そんなふうに思うわけですが、事務局の方々非常にご苦労されてこれを作成されたわけですので、これの理解は私なりにしているつもりですけども、そんなことを、とりとめない話みたいですけども、ちょっと心配の余り発言したわけです。

委員長（豊口 協）

これ委員長が答えることかどうかわかりませんが、私の認識している範囲ではまだこれ中間なんです。ですから、これをこのまま一般の方にご説明するという必要は全くないと思います。できるだけ新しいまちの市民になる人たちの意向なりなんなりを全部抽出して、その中でこの委員会としてはこういう問題を重点的にやっていこうじゃないかとか、これはもう共通の課題としてやらなきゃいけないんだというふうなことも、整理をこの小委員会でやっていかなきゃいけないと思うんです。今まで事務局では調査を重ねてこれだけの内容のものを抽出していただいて、今俎上に上がってきていると。その中で少しずつまとめた方向を今打ち出そうとしているわけです。ですから、今後今ご心配されていましたが、この小委員会の提案によって新しい新長岡市の方向というのは具体的になってくる、できるような方向にこの小委員会がちゃんとまとめなくちゃいけないという義務がありますので、これから後の小委員会はかなり大変というか、しんどいことになるだろうと思いますが、そういうふうにご理解いただきたいと思います。この後の第3項目というか、資料に基づきまして今後のスケジュールの説明が事務局からあると思います。その中でどういう方向でまとめていくのか、いつごろどういうふうに小委員会が機能しなきゃいけないのかというふうなことも明らかになってくると思うんです。ですから、そこまで聞いていただいて、またひとつご意見をいただければ大変ありがたいという気がいたしますけども。

はい。

委員（野田幹男）

今資料ナンバー2の中で、育む、育てる、育成するという表現が結構出てきますけれども、それで戻って申しわけないんですけど、さっきの資料ナンバー1の最後の人財万歳都市・新ながおかという中で表現が云々ということがありました。それで、当局の方ではできれば対案をということでありましたけれども、なかなかすぐ浮かばなかったんですが、私なりに今資料ナンバー2の説明をいただきながら、7ページ、戻って恐縮なんですけど、資料ナンバー1の統合ビジョン、この中で人財、これは人、それから「財産」の「財」、この万歳都市というのを育成繁栄都市・新ながおかとしたらいかがなもんかなと。

育成というのは、今申し上げるように幾つか育てる、育む、育成が出てきますし、この解説の中で長久の繁栄(=万歳)となっておりますから、率直にそうしたら繁栄を使ったらいいのかなと。ですから、人、財もこれによろしいんですが、人財育成繁栄都市・新ながおかと。これは私だけありますから、決してこれにしてほしいということではありませんけれども、検討に値したらひとつ検討してみただければありがたいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

はい。

委員（山本俊一）

ちょっとどうなんだろうかなというふうに思うんですけども、今のどうも見極めると、それから発信する、育てるといのがひとつあって、その中で見極めるがアイデンティティの確立、それからイメー

ジアップ、ブランド育成というふうになっているわけです。例えば先ほど三島の方からもお話があったわけですが、6ページの中の見極めるという中では、生きる楽しみだとか、育つ喜びをというふうなことで、幼児から高齢者までの区域のエリアをみんなカバーしているわけですが、発信するで年寄りだけの話になっていると。それから、育てるではやはりどっちかといえば子供たちのことになっている。やはりこの発信する、育てるという中で一本に入っています、ほとんどののは。それがなかなかちょっと難しいのではないかと。もう少し具体的にしてほしいが、さっき委員長の方からぼっちは後でいいんで、それは細かくこれから具体的に検討することになるんだと、この上の一つの項目のものがこれで適正かどうかというふうなことなんです、やはりこれ一本にまとめるからなかなか整理が難しいのではないかと。例えば2本、あるいは3本ぐらいの形の中に出てそれを一つの発信、あるいは育てる中に入れておけばまだ整理があれなんだろうと思うんですけど、その辺あたりはどういうふうにお考えか、ちょっとお尋ねしたいんですが。

委員長（豊口 協）

これは整理の問題だと思いますが、この世代をつなぐといいますか、安住都市、要するに年齢の差とか、それから社会的な地位だとか、そういうことをすべて今までのような枠を外して全体を一つの人の生きるまちとしてとらえていこうということが視点だと思うんです。ですから、今ここで使っています言葉も、その中の一つのポイントがここに浮かび上がってきているんだろうと私は思うんですけども、そういう意味でこの安住都市のあり方について再度これから事務局の方でも一遍整理をしていただいて、次の段階でまた議論していただくというふうにしたいと思いますが、よろしいですか。

委員（山本俊一）

はい。

委員長（豊口 協）

はい、ありがとうございました。

ほかにございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

この重点実現項目に対する前提ですけども、非常にたくさんご意見をいただきましてありがとうございました。今日のこのご意見は、実はこの後の第3項目の資料にいろいろと解決の糸口といいますか、方向性が見えてくると思いますので、それをまた聞いていただいて、ご意見があればいただきたいと思いますが、それでは、続きまして将来構想書の構成について、事務局の方で説明をお願いしたいと思います。

事務局（竹見）

それでは、（3）の新市将来構想書の構成についてご説明いたします。座って説明いたします。

お手元の資料ナンバーの3をお開きください。新市将来構想書企画案検討資料です。1枚おめくりい

ただきますと、まず構成の基本となる考え方を書いてございます。まず、1番目ですけど、これまでの構想書のように検討結果だけを載せるのではなく、途中経過、検討過程も明示します。それから、二つ目ですけども、一つの情報項目を最大でも見開き2ページとなる構成を行うことで情報を簡潔化し、それから断片的にも情報入手が可能な構成といたします。それから、(3)ですが、地域それぞれの夢、今自治体ワークショップを行っておりますけど、そちらで地域別の整備方針、あるいは活動方針を新市全体のビジョンと同等の見開き2ページを確保し、各地域、いわゆる市町村ごとの独自性を強調します。

それから、2の構成の柱ですけれども、全部で5部構成といたします。まず、第1部が新しいまちづくりの進め方、それから第2部が新しいまちの姿をさがす。これは、今ご検討いただいているブランディング価値とか、それから重点実現項目です。それから、第3部が私たちの望むまち。新市地域らしさ価値を高める新市を構成する市町村地域別の活動方針とか具体的な活動項目です。それから、(4)が第4部で、まちの未来を予測する。財政シミュレーション、あるいは将来構想の関係と役割について解説します。第5部ですけど、新しいまち実現の視点や姿勢です。住民自治と、あるいは都市経営、行政制度の考え方を、行政と市民の今後のあり方を中心に解説します。

続いて構成です。1枚おめくりいただきますと、新市将来構想書84ページの案という形で載せております。先ほど申しましたように、全部で第5部ということなんですけど、まず最初に表紙が来ます。こちらは、その未来とか地域らしさをイメージするイラストです。それから、オープニングですけれども、こちらの会長のあいさつ、あるいはまちの未来を予測するという形で載せます。それから目次。

第1部ですが、新しいまちづくりの進め方です。こちらは、まず仮想賢人会議という形で載せたり、それから将来構想の意味と役割というのを住民の皆さんにわかりやすく、グラフィックなどを使いながら説明をしたいと思っています。それから、役割実現のための策定手法ということで、新市地域らしさ価値策定の手法を説明するように記載します。それから、新市民の声を集めるその1、その2、その3、あるいはオピニオンの声を集める、それから現在の長岡地域の姿、それから市民の声を統合する。これは、今まで現況調査、あるいは地域アンケート、住民ワークショップ、有識者ヒアリング、それから首長・議会代表の取材調査等を簡潔にまとめて、経過がわかるようにしたいと考えています。それから、新市地域らしさ抽出のためのクライテリア、いわゆる判断基準です。小委員会でもいろいろご検討いただきましたけれども、キーワードを整理します。それから、重要度の分析とか、それから地域らしさ価値の言語化した具体化方針をこちらに載せます。それから、社会の流れを知るということで、いわゆる社会背景・マーケティングの関係の分析を載せます。

途中コラムを挟みまして、第2部に移ります。こちらは、新しいまちの姿をさがすと。新市地域らしさ価値前回いろいろご検討いただいたり、今回も重点実現項目をご検討いただいておりますけども、こちらの計画全体の考える部分、一番コア、核となる部分です。上から新市地域らしさ価値その1です。その2、その3、その4ということで、独創企業生育都市、それから元気に満ちた米産地、世代がつながる安住都市、世界をつなげる和らぎ交流都市、それぞれ見開き2ページで紹介いたします。次が44ペ

ージと45ページですけど、新市地域らしさ価値を高めるための重点実現項目、今日ご議論いただいた部分でございます。

それから、コラムを挟みまして第3部に続きます。第3部が私たちの望むまちです。これは、今後新市地域らしさ価値を高める、あるいは達成するためにはどうしたらよいかという部分です。計画、前提を考える部分から、今度それを具体的に進めていく部分です。まず、地域別活動項目の抽出方法を紹介します。それから、私たちのまちの力、今自治体ワークショップでもそれぞれの市町村ごとの地域資源を今まとめてもらったり、それから検討していただいております。それから、地域の夢という形で、いわゆる地域別の整備、活動方針を各市町村ごとに見開き2ページで掲載をしたいと考えております。それから、具体的な活動項目です。これは、今日ご議論いただいた重点実現項目と、それから地域別の整備方針、あるいは活動方針からどんな展開が出てくるかというものを、いわゆる地域別と、それから分野別に見開き2ページずつでまとめていきたいと考えています。

それから、コラムを挟みまして、次は第4部のまちの未来を予測するです。こちらは、財政シミュレーション、それから将来構想を活用したまちはということで、将来構想を活用して課題解決のためにどういうふうに使えるかということを説明いたします。

次にまたコラムを挟みまして、第5部、新しいまち実現の視点や姿勢です。こちらは、全般を通しまして住民自治の視点とか行政のあり方、あるいは都市経営の視点と行政のあり方、それから行政制度の視点と行政のあり方という形でまとめます。

最後に、用語集とか、あるいは小委員会の皆様方のメンバーを紹介させていただいたりして、最後イラストで締めたいと考えています。

それから、今回策定過程からすべてストーリー性を持たせて、第1部から第4部までまとめるような形で考えております。ほかの協議会の構想書とはちょっと違った形の特色を考えております。

それから、ついでで申しわけないんですけど、自治体ワークショップの今のご紹介させていただきまされども、第3部の私たちのまちの力と、それから地域の夢という部分について今ご検討をお願いしているところです。ワークショップにつきましては6月6日に第1回を開催いたしまして、ほぼ週1回ずつ開催をしております。7月10日の第5回まで現在済みまして、新市のために本当に生かしていきたい地域の資源を探していただいて、その訴求点の抽出、あるいは絞り込みを行っていきまして、今小委員会でご協議いただいている地域らしさ価値に当てはめる形で今後活用できる資源と地域の役割、新市になったときにどういう役割ができるか、そういった検討まで現在各市町村のご担当から検討をいただいているということです。今後は、その導き出した地域の役割にアイデアを加えて地域別の整備方針と活動方針を確立していくように考えております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。最終的なプレゼンテーションの形を今日説明していただいたわけですけど

も、今までこの小委員会、その他のさまざまな動きが全部ここに整理をされて入ってまいりまして、それが活字化されて報告書として出てまいります。今現在私たちがやっております作業は、第1部が終わって第2部と。第2部も大体終わりに近づいてきているわけでありまして、こういう形でこれから将来さらに委員会を進めていくということになりまして、今日お手元へお届けしたと思っておりますが、この後の小委員会が7月の28日、それから8月の8日、8月の26日、8月29日が予備日ですけども、こういう形でずっと進んでまいります。そういうわけで、先ほどからご意見をいただいているいろいろご心配の点もあると思っておりますけれども、だんだん具体的な内容に集約されていくだろうということになります。

この第3の資料につきまして、何かご意見、ご質問がありましたらお受けしたいと思います。

はい。

委員（山本俊一）

この構想書なんですけれども、それで全体的なものは、当初ビジョンとかなんとかという8市町村のものについては全体的に何か考えられるもんがここへ出てくるんだろうと思うんですが、地域の夢ということで、見附地域、長岡地域みんなばらばらになっています。それで、せっかくここにまた見附だったら見附だけのをここに書くというふうなことじゃなくて、私どもの方、長岡、あるいは栃尾、中之島と接点みんな持っているわけですので、従来であれば見附のことしか考えられなかったわけですけども、それが例えばもう一緒になるんだというふうなことであれば、こういう点はどうだろうといういわゆる接点の関係のものが、非常にいろんなものが出てくる可能性もありますんで、その辺あたりをどっかで取り上げるような形のを考えられないかどうか、その辺あたりちょっとお願いしたい。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常に重要なご意見だと思いますが、事務局いかがでございますか。

事務局（竹見）

まず、今自治体ワークショップを行っておりますけれども、まず合併した後地域の方々の非常に多い不安というのは、いわゆる地域の個性がなくなるんじゃないとか、そういった切実な課題として地域アンケートでも出ています。それで、まず地域として合併した後もどういうふうな活動をしていくのかということで、まず一つ地域としてのアイデンティティといいますか、そういったものを固めていただいて、それから今地域のブランディング価値を検討させていただいておりますけれども、その新市になった後地域らしさ価値を高めていくために地域としてどういう活動ができるか、まずそのところを固めていただくのが第1段階なのかなと考えております。それから、今後どういう日程で、どういう形でというのはまだ今お話しできないんですけど、それが固まってから考えていくことが今後大切なのかなというふうに考えていまして、まずは各市町村ごとに地域のアイデンティティを固めて、それから合併した後にどういう活動ができるか、そういった部分を最重要課題として今考えておりまして、こういう形で第3部で掲載しているところです。

委員長（豊口 協）

私の今理解では、ちょっと質問していただいた内容とお答えいただいた内容がちょっとずれているような気がするんですが。

事務局（北谷）

山本委員のおっしゃることはよくわかるんで、当然見附単独じゃない部分、あるいは長岡だって、例えば8市町村全体じゃなくて、そのうちの8分の3、3市町村だけでやったらもっと効率がいいだろうというのは当然出てくると思います。それはそれで地域別ではないところ、いわゆる全体、今議論をいただいている地域ブランドのところ、例えば農業のところで中之島町と見附と共同でやるとか、共同でやる事業がそこで具体的に明示されるとか、そういったイメージを私は持っていますので、大丈夫だと思います。

委員（長谷川孝）

委員長、よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（長谷川孝）

この新市将来構想書、これはいつごろ発行の予定なんですか。

委員長（豊口 協）

事務局お願いいたします。

事務局（高橋）

発行日ですけども、協議会の最終的な日付がまだ確定しておりませんので、何月何日ということお話しできませんが、協議会の一番最後のところで最終的な、要するにほぼ印刷する段階のものをご承認いただいて、ご承認いただければすぐ印刷に入りたいと思っております。

以上です。

委員（長谷川孝）

協議会と申しますのは任意協議会ですね。

事務局（高橋）

そうです。

委員（長谷川孝）

そうすると、その時点ではまだ合併が実現していないわけですね。

事務局（高橋）

そうです。

委員（長谷川孝）

そうしますと、ページ数ですか、第1部の14から15、16、17、18、19ですか、これ新市民の声を集めると、こう書いてあります。まだ新市民になっていないわけでしょう。地域アンケート調査、それから

住民ワークショップ、有識者ヒアリング調査、これはすべて今までの経緯の中でやってきたことです。

まだ新市民にはなっておりません。

事務局（高橋）

それはおっしゃるとおりなのですが、言葉の表現が適切でなければ調整いたしますが、あくまでも今回の構想は合併したならばどういう将来構想が描けるか、もう新市民になったとしたならばどういうビジョンを描けるか、どういう意見があるかということをつくっているわけですので、そういう意味で時点として新市民が正しいかどうかと言われればおっしゃるとおりかも知れませんが、気持ちはあくまでも新市民として意見をいただいているということで整理ができるのではないかなと事務局としては思っております。

委員（長谷川孝）

いや、それぞれの自治体の中でいろいろな意見のあるところがあるわけです。まだ合併が実現していないのに新市民なんていう言葉を使うのは不相当だという議会筋からの、これは恐らくクレームがつくと思います。

以上です。

事務局（高橋）

わかりましたので、そこはまたご意見をお聞きしながら文言について整理をいたします。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。言葉遣いが誤解を生む要素になりますので、これからより慎重に使っていかなきゃいけないだろうと思います。非常に適切なお意見いただきましてありがとうございました。

ほかにございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それじゃ、もう一度お手元に先ほど届いておりますけども、スケジュールを確認していただきまして、この小委員会の日程は手帳にちゃんとお書きいただきたい。時間のずれが少しありますので、お気をつけいただきたいです。もしこれでご意見なければ、副委員長、何かまとめは。

副委員長（二澤和夫）

マイクを渡されたんでございますけれども、ご案内のとおりだんだん、だんだん責任重大、胸突き八丁という感じになってまいりましたが、皆さん方ひとつよろしく願いをいたしたいというふうに思っております。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

事務局何かほかにございませんか。

事務局（高橋）

今週の金曜日の日に協議会がございまして、今までの小委員会での中間報告ということで、最初から今日までの分の報告をする予定になっております。もちろん今日さまざまな意見をいただいておりますので、直すべきところは直しますが、すべてご承認していただいた形で直して協議会に出すことは困難だと思っております。したがって、途中経過というような考え方の中で、今ここまでの議論を小委員会ではしているという報告のスタイルで18日の日にはお話をさせていただきたいと思っておりますので、そのようなご理解でよろしくお願いをいたします。

委員長（豊口 協）

ということです。よろしゅうございますね。ありがとうございました。

それじゃ、ちょっと時間残しておりますが、これで第7回の小委員会を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

午後8時25分終了